

鷹巣地区自主防災組織の取り組み

鷹巣自治会長

佐藤昭 さん



地震対応に加え豪雨災害対応も

鷹巣地区の自主防災組織の立ち上げは東日本大震災直後の平成23年4月です。活動内容は、毎年の市総合防災訓練、地区独自の自主研修会、防災に関する広報活動などを通して地区民へ周知を図っているところですが、

組織の立ち上げ当初は地震災害対応の組織を作っていましたが大雨が降ると地区内で小規模の土砂崩れや道路の冠水が発生しました。自主防災組織内でも大雨の対応をしなければということで、少しずつですが大雨災害対応へのかじ取りをしてきました。

しかし、台風19号であればほどの被害が出るとは思っておらず、地区内の被害の大きさにショックを受けました。内水氾濫という言葉は今回の台風被害で初めて聞いた言葉でした。

今回の台風19号で地区内が大きな被害を受け、自主防災組織として大雨災害に重点を置いていかなければいけないと痛感しました。集会所も今回の台風被害を受け、防災用具を高い所に置いたり、役員で分散して保管したりするようにしました。

本年6月にはハザードマップが新しくなったので地区住民へ必ず目を通すようにお願いをしているところですが、しかし、2000人を超える大きな地区で、自治会未加入者も増えてきています。自主防災組織の活動が地区内で理解してもらえないように取り組んでいくことも課題です。

災害を止めることはできないので少しでも防災・減災の意識を地区内で高めていきたいです。



1_姉妹都市からはたくさんの支援を頂きました 2・3_防災の取り組みとして各地区では防災訓練や自主防災研修を実施しています 4_非常用持ち出し袋など事前に災害に備えた準備をしておきましょう

地域・家庭で 防災・減災の取り組みを

災害が発生する前に、災害に備えた準備を行っておくことが大切です。昨年の台風被害を忘れることなく、ハザードマップを活用して自分の住む地域の危険箇所や避難場所の確認を再度確認をお願いします。

また、現在は感染症への対策も必要です。本市では避難所の感染症対策を講じていますが、指定避難所以外への避難、避難の際にはマスク、飲料水、食料、懐中電灯などの最低限の必需品の準備を事前に非常用持ち出し袋などの準備をお願いします。

あの災害から1年、令和元年東日本台風は、本市にこれまで経験のない災害をもたらしました。現在も道路・河川・農業用施設の復旧工事を進めているところですが、被災した箇所が市内に多数あり完全復旧までにはかなりの時間を要します。市では、これからも1日も早い復旧に向けて全力で取り組んでまいります。



1_JR白石蔵王駅前の大規模な冠水被害 2_台風が去り、水が引いて泥で覆われた鷹巣地区 3_鷹巣集会所は床上浸水被害を受けました 4_2,200トン以上の災害ゴミが発生し、旧白川中学校校庭に仮置き場が設けられました



ハザードマップを配布しています

広報しろいし6月号と一緒に新しく作成したハザードマップを配布しました。ハザードマップで色が塗られている場所は浸水などの恐れがあります。事前に自分の住んでいる場所や周辺に危険な場所がないか確認しておきましょう。



☎危機管理課 ☎22-1452